

令和5年度学校自己評価システムシート (県立大宮武蔵野高等学校)

目指す学校像	1 高い目標を持ち、自らの夢を実現できる生徒を育成する学校 2 社会で活躍できる生徒を育て、地域が誇れる学校
--------	---

重点目標	1 学力の向上を目指した、生徒一人ひとりに適した授業改善の取組 (R5 変更) 2 第一志望実現に向けた系統的な進路指導の確立 3 基本的生活習慣の確立とマナーアップ、生徒の主体的な活動の一層の充実 4 地域貢献・連携ができ、地域に信頼される生徒の育成
------	---

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	6名
	生徒	3名
	事務局(教職員)	6名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価							
年 度 目 標			年 度 評 価 (1 月 9 日 現 在)				
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	【現状】 ・授業への集中度 95% ・授業のわかりやすさ 75% ・各種検定試験受検を奨励 【課題】 ・授業のわかりやすさを向上させるための取組、生徒の意欲を引き出す探究活動を支援するための取組を充実させる工夫が求められる。	わかりやすい授業に向けた改善と主体的に学ぶ生徒の育成	①授業公開週を年2回設定して、各教科で授業改善のための意見交換を行いながら、様々な学力層の生徒に対応した、各生徒が小さな成功体験を感じるような授業を実施する。【教務部・各教科】 ②生徒対象のアンケートを年2回実施し、その結果をもとに生徒の学習習慣を分析する。【教務部】 ③学びへの興味関心を高め、主体的な学習に向けた支援をするための補習や検定、その他教育課程外の探究活動を積極的に実施する。【各分掌・各教科】	①生徒アンケート「授業のわかりやすさ」「入学して良かった」の数値が向上したか。(数値の推移) ②アンケート結果と分析をフィードバックできたか。(取組) ③各教科・分掌の取組により、補習や検定の受検状況が向上し、生徒の探究活動が活発に行われたか。(観察・数値の推移)	【概ね達成】 授業公開週を、研修の目的を明らかにしたうえで6月と11月に設定した。1学年に一人一台端末が導入されたことから、ICTの活用例などを相互に学び合う気風を醸成した。12月生徒アンケート(肯定的回答) ・「授業のわかりやすさ」前年度比5%増 ・「入学してよかった」前年度比6%増 検定試験の受検状況が向上 ・英検受検者数35名(R4通年21名)学習に課題がある生徒や進学希望者を対象とした補習を実施した。	B	12月生徒アンケート ・授業で基礎学力が向上した90% ・授業以外で全く勉強しない38% ・考査の準備状況は二極化が顕著 一人一台端末環境を利用して、週末課題や補習課題、考査対策を配信するなど、対応に向けた工夫を始めている。 授業のわかりやすさを向上させるための取組を継続しながら、主体的に学びに向かう姿勢を生徒が整えていくための働きかけを検討する。
2	【現状】 ・約90%が進路を決定した。 ・生徒アンケート「夢や希望があり努力している」否定的回答増加 【課題】 ・明確なキャリア意識の指導を進めることが求められる。 ・学校生活の充実が進路意識に及ぼす影響を鑑み、生徒理解に基づいた進路相談等を充実させたい。	キャリア意識を育成と生徒理解に応じた進路指導の実現	①LHR・総合的な探究の時間等を活用して、キャリア意識を育成し進路選択につなげていく指導を行う。面談等を活用し、学校生活を充実させることから進路意識を涵養する。【進路指導部・各学年】 ②進路資料室や図書館が積極的に利用されるよう促進する。【進路指導部・図書視聴覚部】	①生徒アンケート「夢や希望があり努力している」の肯定的回答が増加したか。(数値の推移) ②授業内外で進路資料室や図書室を活用する場面が増えたか。(観察・取組)	【概ね達成】 総合的な探究の時間を利用してキャリア教育を念頭においた実践的な職業意識の育成を図った。12月生徒アンケート(肯定的回答) ・夢や希望があり努力している71%(R472%) ・進路未定者約5%(前年度約10%) 学校求人希望者全員が内定を獲得した。図書室の授業活用が進んだが、蔵書貸出数は前年度比で減少した。	B	12月生徒アンケート ・進路実現に向けたガイダンスが充実している93%(R484%) 学校の取組は生徒に浸透しているが、生徒のキャリア意識の変容には直結しなかった。 今後取組の見直しを継続し、生徒のキャリア意識・自己理解を深めるとともに、生徒理解に基づいた進路相談の充実を努める。
3	【現状】 ・校内で校則を守る意識は高値を維持している。 ・校外マナーについての指摘件数は変化なし。 【課題】 ・学校生活への意欲を喚起し、生徒が主体的に自らの身を守るようになるための指導が求められる。	生徒の主体的な行動の啓発とマナーアップ	①挨拶の励行を核として対人関係力や思いやりを育てるとともに、「気づいたらその場で指導する」日常的な声掛けの徹底によるマナーアップを図る。【生徒指導部・各学年】 ②生徒情報を共有したうえで、教職員全員の指導により、生徒が自己を肯定し、目標を達成しようとする態度を育てる。【生徒指導部・保健管理部・各学年・特別活動指導部】	①生徒アンケートにおける学校外でのマナー意識に係る項目の回答が向上したか。(数値の推移) ②丁寧な指導を継続し、生徒の態度が変容したか(取組・観察)	【概ね達成】 生徒会・風紀委員会生徒と合同で挨拶運動・交通マナー呼びかけ活動を実施した。12月生徒アンケート(肯定的回答) ・学校外でのマナー意識79%(R481%) 挨拶を進んでする生徒の増加がみられるが、校外マナーに対する指摘件数は前年度並み。1学期には登校時、2学期には下校時マナーについての指摘を複数いただいた。学校独自カウンセラーは通年導入。	B	12月アンケート(「よくあてはまる」との回答) ・学校は基本的生活習慣の確立に十分に取り組んでいる生徒47% 保護者14% 今後も安心安全な学校づくりを継続することに加え、保護者との共通理解による協力体制を維持しながら学校生活への意欲を喚起する教育活動の工夫を行っていく。
4	【現状】 ・感染対策を徹底し、分掌・学年が協働し工夫しながら各行事を実施。 ・文化祭やスポーツ大会等を通じた分校との交流が深まっている。 【課題】 ・行事・部活動の充実により、学校生活への満足度を向上させたい。	生徒の主体性を育てる活動の充実	①部活動に意欲的に取り組む態度を育て、活動を活性化させる。【部活動推進委員会・特別活動指導部・各学年】 ②生徒間、教職員と生徒、分校との交流の機会を増やし、生徒が役割意識を持つよう働きかける行事を実施することで、生徒の自己有用感を高める。【特別活動指導部・部活動推進委員会】	①部活動継続率の前年度比。部活動の活動状況が充実したか。(数値の推移・取組) ②生徒アンケートにおける各行事の満足度・「入学して良かった」の前年度比。(数値の推移)	【概ね達成】 年度当初の部活動加入率が10%減少した。継続率は前年度並み。「OMB」(Omeya Musashino Bukatsu)活動として、部を超えた交流プログラムを実施。文化祭は4年ぶりに一般公開にて開催。分校交流事業に参加した生徒全員が「楽しかった」と回答。12月生徒アンケート(肯定的回答) ・学校行事の充実度71%(R469%)	B	生徒アンケート「学校行事の充実度」は年々上昇傾向。分校との交流は昨年引き続き活発に行われた。分校生の主体性も尊重し、共同開催できるものは引き続き連携しながら行いたい。部活動継続率の向上を目標に働きかけを行っていく方針は継続しながら、学校全体が部活動を応援している機運を高めていく。
4	【現状】 ・HP閲覧数前年度比1.5倍 ・地域・PTAとの積極的な協働 【課題】 ・本校志望者の増加を図りたい。 ・地域が誇れる学校を目指し、PTA・地域との連携や地域への貢献によって、密接な関係を築いていきたい。	生徒募集活動の充実と地域貢献を通じた信頼される学校づくりの推進	①組織的に生徒募集活動を工夫・改善し、本校をアピールする手段を講じる。【部活動推進委員会・教務部】 ②PTA行事の時期・内容の見直しを行い、主体的に参加しやすい活動とする。【渉外部】 ③行事への参加や、学校評議員会・自治会との懇談会等における地域課題の共有を通して、地域との密接な交流を行う。【部活動推進委員会・各部活動・各分掌】	①学校説明会の参加者数の前年度比。(数値の推移) ②PTA行事の実施状況が充実したか。(取組) ③地域行事や交流事業に積極的に参加できたか。(観察)	【概ね達成】 部活動生徒の学校説明会運営参加、生徒による母校訪問を実施するなど工夫を図った。HP閲覧数は前年に引き続き同期比約1.5倍に増加したが、学校説明会参加者数は減少傾向にある。PTA行事の内容見直しを行った。避難所開設に係る初動支援申出の取組が、令和5年度「埼玉・教育ふれあい賞」を受賞。	B	母校訪問に合わせて、高校による広報活動についての意識調査を中学校担当者向けに実施した。効果的に中学生及びその保護者にPRする方法を具体的に検討する。 地域連携は活発な交流を継続中。今後も地域が誇れる学校を目指して密接な関係を持続し、双方の課題を共有して改善を検討していく。

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	令和6年2月13日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> ・生徒のアンケートにおいても、基礎学力の向上が生徒自身、実感されていることが素晴らしい。端末利用においては、分かりやすさの向上や個別最適な学びにおいて、どう活用していくべきなのか考えていくことが重要になる。 ・先生方の授業を見ると、授業方法はさまざまである。授業公開等で教員同士でも良いやり方をどんどん取り入れていき、分かりやすい授業を作っていくしてほしい。その結果が生徒の学校満足度につながり、学習意欲の向上にもつながる。 ・進路ガイダンスを充実させる取組についても、授業等で図書館利用を進めていく取組についても、年間の授業計画にきちんと位置付けたうえで司書と共有し、連携するとうまくできるのではないかと。 ・今年度から進路ガイダンスに保護者が参加できる形になったのは良かった。今までよりわかりやすくなったと思う。生徒から情報が来ないこともあるので、普段から、保護者にも進路の情報がおりてくるとありがたい。 ・マナーについては、保護者にも発信して知らせてもらえれば、家庭でも何が良くないのか、話ができる。学校と家庭が協力して生徒を見ていければよい。そのためにも、生徒の状況は保護者にも見えるようにしてほしい。 ・挨拶運動は、対生徒へのみの取組と考えるのではなく、校内外に広く向けたものとなる良い。生徒会にはぜひ今後も頑張ってもらいたい。 ・大宮武蔵野の生徒達は団結力があるので、もう少し、部活動が活発になると、子供達の何かに打ち込む気持ちが芽生えるのでは。 ・今年度部活の加入率が下がったとのことだが、今後、中学校では部活が任意制になるので、その影響は避けられないだろう。さらに加入率が下がるなど、高校はより部活動を行うのが厳しくなると心配している。部活動はどんどんやってほしいと思っているので応援している。 ・地元地域の高校のなかでは、大宮武蔵野高校が一番地域にかかわってくれていると感じている。避難所開設訓練、インターアクト部や生徒会による街頭募金への協力、選挙の期日前投票立会人や啓発ポスター制作など、今後もうまくつながっていききたい。 ・チアダンス部には様々な行事で地元の小中生とつながりができてきている。地元の子もたちにとっても、高校に接続する良いきっかけではないか。 	